



TITLE:

# 「電子図書館システム」構築に向けて動き始めました

AUTHOR(S):

---

CITATION:

「電子図書館システム」構築に向けて動き始めました. 静脩 1997, 33(2): 9-10

ISSUE DATE:

1997-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37456>

RIGHT:

## 図 書 館 の 動 き

### 学術情報センターとの共催による 地域講習会 (IR、CAT、ILL) を開催

平成 8 年度に学術情報センターとの共催で実施した地域講習会は、以下のような日程および内容で実施されました。

- 10月3—4日：I R 講習会 (16名)
- 10月22—24日：C A T 講習会① (10名)
- 10月28—30日：C A T 講習会② (10名)
- 11月19—20日：I L L 講習会 (10名)

センターと協力して、毎年、定期的にこのような講習会を開催してきており、内容については、十分良く知られたものとして定着してきました。ところが、CAT については、学内の受講者は、ある程度行き渡ったのか、このところ少し減少傾向にあります。センターのサービスの安定的な運用、そして利用者の範囲の拡大に伴い、この講習会の役割も大学内に止まらず、より広い範囲を対象とすることになってきたように思われます。

来年度には、学術情報センターのシステムが新 CAT へ移行してゆく作業が開始されることでもあり、次年度以降これらの講習会の開催方法についても再検討が必要になっているのかも知れません。

(和書目録情報掛)

### 学術情報センターの新目録所在情報サービス説明会を開催

平成 9 年 2 月 21 日薬学部講堂において、学術情報センターが開発を進めてきた新目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) の説明会が開かれました。

関西地区を中心に国公私立大学・短大・高専および公共図書館など 129 機関から、343 名の図書館職員が集まり、新しいサービスの説明に熱心に聞き入りました。

参加者の内訳は下記の通りでした。

国立大学・高専	18機関	109名
公立	17	47
私立	84	175
公共図書館	7	9
その他	3	3
計	129	343

学術情報センターのシステムが、平成 9 年 4 月より、ダウンサイジング、インターネットに対応したものに移行を開始するにあたって開催された、参加図書館への内容説明でした。

本学においても、平成 10 年 1 月に現在の業務用電子計算機システムのリプレイスおよび電子図書館システムの導入・稼動を計画しており、センターとの連携を効果的に図っていく必要があります。

(システム管理掛)

## 「電子図書館システム」構築に向けて 動き始めました

平成 9 年度概算要求「電子図書館システム」に対して予算が付くことが 12 月 25 日に文部省から連絡が入り、明らかとなりました。

大学図書館機能の高度化のために、京都大学において実現すべき内容として要求していたもので、筑波大学とともに、大学図書館における新規プロジェクトとして、平成 9 年度より、実現に向けて努力していくことになります。

21 世紀へ向けて、本格的ネットワーク時代にある大学の図書館の在り方の一つの方向性を作り上げ

ることが期待されるわけですが、全学の図書系職員の周知を集めるだけでなく、京都大学における高度情報化の中での取り組みの一つとして、全学的に有効に機能するシステムを作り上げる必要があります。

平成 10 年 1 月の稼動に向けた取り組みがもう始まっています。具体的な計画の立案からその実現へと図書館が有機的組織として機能することによって、大きく変化することになるかも知れません。大学図書館の利用者層の意向をも反映した新しいサービス機関としてどのような変貌を遂げるか、総合情報メ

ディアセンターや総合博物館と協調してどのような情報サービスを提供していくか等調整を行い、効果

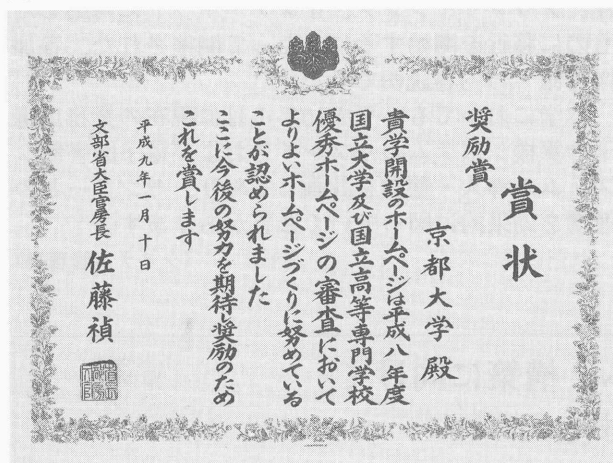
的な内容を計画し実践する予定です。ご理解とご協力をお願いします。  
(システム管理掛)

## 本館ホームページが 「国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞」 を受賞しました

国立大学等優秀広報誌等表彰に、平成8年度より新たに、優秀ホームページを表彰する「ホームページ（インターネット）の部」が設けられ、平成8年12月に選考が行なわれ、本学より推薦されていた「京都大学附属図書館ホームページ」が奨励賞を受賞しました。

本館のこのホームページは、平成8年1月に開設されたもので、館内職員による電子図書館ワーキンググループが中心となって立ち上げ維持してきたものです。

評価された内容は、Java アプレットを使った技術的な面よりは、公開している内容の豊富さが対象とされたようです。本館ホームページの構造概念図（下図参照）を見てもわかりますように、目録や電子展示に掲載している図書館資料情報の電子化が同時に進んでいる面が、審査において特徴的であったもの  
賞状



と思われます。

平成9年度の電子図書館システムの予算化も、図書館資料情報の電子化の推進とともに既存の図書館システムとの有機的な結合が最も注目されるであろうと考えます。図書館職員の衆知を集めて、より機能としてまとまったシステム化を実現していくことが求められています。

(電子図書館ワーキンググループ)

附属図書館ホームページ構造概略図



## 展示会「『今昔物語集』への招待」を開催

附属図書館では、平成8年度の秋季展示会を、展示ホール（3階）において、11月11日（月）から17日（日）までの7日間、標記テーマで開催し、国宝鈴鹿本『今昔物語集』および本館所蔵の重要文化財指定図書を展示した。入場者数は947名であった。開

催期間中の11月15日（金）には、AVホール（3階）において、本学の西山良平総合人間学部助教授による講演会、「『今昔物語集』の〈構造〉と歴史学」を開催した。来聴者は121名であった。なお、展示会開催に先立つ11月8日には、鈴鹿本『今昔物語集』の